

今週のメニュー

■トピックス

◇育児用品分野で積極展開する(株)水上オモイオ事業部

■随想

◇ららら、プラスチック (6) アナログレコードの思い出

前 日本プラスチック工業連盟 専務理事 岸村 小太郎

■トピックス

◇育児用品分野で積極展開する(株)水上 オモイオ事業部

2022年3月1日～4日の4日間、東京ビッグサイトで「JAPAN SHOP 2022」が開催され、[\(株\)水上 オモイオ事業部](#)の出展ブースを訪問しました。同社はおむつ交換台・ベビーチェア、ベビールームに適したファニチャー類、キッズスペースなど施設向け育児用品を積極的に展開しています。今回は展示されていた主な製品について紹介します。

まず、今注目を集めている「収納式多目的シートYU2」。この横型多目的シートYU2は、一般的に普及している縦型に比べて開閉し易く、壁面に沿って設置できるので転落のリスクも少ないこと、十分なベッド部の面積があって、保護者も隣に腰掛け、楽な姿勢でおむつ交換などのお世話ができる点が特徴です。構造的には、ガススプリング内蔵で、軽い力で安全に開閉が可能、マグネット式バックルベルトが採用されているので簡単に開閉ができる点が特徴です。本体には高衝撃塩ビ板「[タフビロン®](#)」を採用することで、軽量化、耐衝撃性、清掃性などの機能が向上しています。一方、マットの表面材にはビニールレザー（PVC）が採用されており、防汚性、抗菌・防カビ性、耐薬品性、難燃性が優れています。近年増えている多機能トイレ向けに乳幼児のおむつ交換・おきがえや、障害者や高齢者の方々のケアに幅広くご活用でき、外出先での負担の軽減など社会に貢献できる製品として今後の普及が期待されます。



多目的シート YU2

本製品は2021年8月に第15回キッズデザイン賞^{*1)}、建築材料住宅設備総合展 日本建築材料協会賞、同年10月に2021年度グッドデザイン賞、同年12月に[PVC Award 2021](#)において優秀賞を受賞しました。

*1)キッズデザイン賞は、子どもや子どもの産み育てに配慮したすべての製品・サービス・空間・活

動・研究を対象とする顕彰制度。



左:オムツっ子®NW

右:オムツっ子®四方囲み

次にベビールームのコーナーでは、赤ちゃんとの外出先で快適で安心して過ごせるように、“あったらいいな”をコンセプトに開発した施設向け育児用品が展示されていました。清潔で使いやすいおむつ交換台・ベビーチェアを紹介します。置型おむつ交換台「オムツっ子®」NW等のシリーズはマットの張材にビニールレザーが採用されています。マットは交換できるので清潔に使用できる特徴があります。ベルトはマグネットが内蔵されていてスライド操作で簡易脱着式になっています。また「オムツっ子®四方囲み」は四方の壁を立ち上げてガードし気になる視線も緩和することで子どもたちの安全・安心に貢献するデザインになっています。2018年2月に発売され、2019年に第13回キッズデザイン賞を受賞しました。

次にキッズコーナーでは、キッズソファ・ベンチ・スロープマットなどを配置して、子どもたちが安心して楽しく遊べるスペースを演出しています。キッズソファは8種類の色彩と個性ゆたかな動物たちをモチーフにするなど豊富なバリエーションの1人掛けソファです。すべての製品の張材には丈夫で、汚れにつよく、お手入れがしやすいビニールレザーを採用することで、安全・安心で衛生的な環境を提供しています。



キッズコーナーの様子

同社は、2016年4月(株)アビーロードより事業譲渡を受け、2018年3月従来のアビーロード事業部をオモイオ事業部とし、2019年4月社名を(株)水上金属から(株)水上に変更し現在に至っています。

この展示会を通じて安心できる社会、安全に過ごせる生活、快適に感じられる環境に寄与したいという同社の想いが伝わってきました。今後も育児用品分野での活躍を期待しています。

■ 随想

◇ららら、プラスチック (6) アナログレコードの思い出

前 日本プラスチック工業連盟 専務理事 岸村 小太郎

[No.718 \(2/17 配信\)](#) の随想で名古屋大学名誉教授の竹谷先生が触れられたように、プラスチック資源循環促進法が本年4月から施行される。この法律は2019年5月に公表された国の「プラスチック資源循環戦略」を推進するために制定されたもので、この戦略の策定会議に委員として関わった筆者は、その後も法制化に至るまでの動きを注視してきた。新法を含む我が国のプラスチック資源循環施策について述べた拙著¹⁾があるので、興味のある方は参考にされたい。

新法では、使用済みプラスチックのリサイクルの拡大を目的に、従来の容器包装プラに加え、それ以外のプラ製品も分別収集の対象にするとしているが、市町村がプラ製品を分別収集する際のガイドラインとして、環境省が本年1月に「プラスチック使用製品廃棄物の分別収集の手引き」を公表している。「手引き」では、市町村が分別収集物に含めて良いものの例として、ポリタンクやポリ袋等の157品目がリストアップされているが、156番目の「レコード（ジャケットは除く）」に目が留まった。

レコード（アナログレコード）はCDの登場により姿を消してしまっただが、レコードで聴く音楽には味わいや深みがあった。CDは1枚のディスクに収録するために、デジタル処理で人間の耳には聞こえない波長の情報をカットしているので・・・等々の理由があるようだが、聴く姿勢の違いによるところも大きいと思う。何と言っても、レコードは真剣に聴いていた。CDのように曲の途中での停止や再生が簡単にできないので、一度ピックアップを下して演奏が始まると、腰を据えて最後までじっくりと聴いていたものだ。また振動を与えると“針が飛ぶ”ので、基本的にじっとして聴いていた（子供が歩き回ると叱り飛ばしていた。かわいそうなことをしたものだ・・・）。その点、CDは気軽に聴けるため、ついつい“ながら聞き”になり、気が付くと曲が終わっていたということも。当然のことながら、曲を聴いた充実感は残らない。

レコードは聴く前にクリーナーで表面に付着している細かい埃を拭き取り、聴き終わるとまたクリーナーで丁寧に表面を拭き、ジャケットにしまう。そう、このジャケットがまた良かった。

LP版であれば約30cm四方の厚紙製のジャケットで、表面は曲に合った写真や絵画で飾られ、これも一つの作品だった。また、裏面は作品の解説や、作曲者や指揮者、演奏者のプロフィールで埋められていた。こんなジャケットを眺め、そして読みながら音楽を聴いていると、曲に対する理解や愛着も深まっていた。小さなCDでは、こんな楽しみ方はできない。

レコードの材質は塩ビ樹脂だが、私が4、5歳の頃に初めて手にしたレコードは違う素材が使われていた。かなり分厚くて重く、塩ビ製のものとは触感も違い、「落とすと割れる」と注意された記憶がある。本稿を書くに当たり当時のレコードの材質を調べて

みたところ、シェラックという昆虫由来の天然樹脂で、今でも柑橘類や錠剤のコーティング剤等に使用されているとのこと。レコードの材料は、1950年代後半には塩ビが主流になっている。

学生時代に少しずつ買い集めた廉価版のクラシック音楽を中心に、100枚以上のLPレコードを持っていたが、残念ながら今は1枚も残っていない。何度目の転勤・転居の時だったかは覚えていないが、妻の「邪魔だし、どうせもう聴かないでしょ」との一言と、消耗品であるレコード針の生産が終了したこともあり、プレーヤーと一緒にすべて処分してしまった。ところが、これも今回知ったのだが、最近はアナログレコードが再評価され、数年前にはレコード針の生産も再開されたという・・・ああ、もったいないことをした！



写真. 再生中のアナログレコード（筆者が師事する声楽家の自宅で撮影）

- 1) 岸村小太郎, "プラスチック廃棄物問題を巡る各国の動向と我々の対応（下）—我が国の資源循環施策—", プラスチックスエージ, 68 (1), P.29 (2022)

■ 関連リンク

- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <https://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp